

18日の読売新聞1面で大きく取り上げられています。
9月議会、のりこの討論でも触れましたが、
消防団員の任務の見直しが始まっています。
どこまでも命を捨てて…というわけにはいきません。
美談にするなどもっての外。
水門樋門の電動化、通常から閉めておける場所は閉めるための調査
閉めないで逃げることを認めるルールづくりなど
国の責任、行政の責任です。

合併で、西尾市にも消防団ができましたが、
これからも継続するなら、実態に即した「あり方・任務」を
考えるべき時だと思います。
私は、お年寄りや障害者など自力で逃げられない人のリストづくり、
救援方策を一緒に考えるなど、もっと地域に入った役割を期待しています。